

2015 Official Baseball Rules の改正

新条文 (旧)	改正内容
3. 06 (1. 14)	一塁手はグラブまたはミット <u>いずれも使用できる</u> ことを明確にした。
3. 08 (1. 16 (d))	捕手が投球を受けるときは、捕手の防護用ヘルメットおよびフェイスマスクを着用しなければならない。と修正
7. 02(a)(3) (4. 12(a)(3))	サスペンデッドゲームとなる事由にオペレーターのエラーを追加した。
7. 03 (c) (4. 16)	球場管理人が意図的に審判員の指示を履行しなかったときと修正
5. 02(b)(4) (6. 02 (d))	<p>現行6. 02 (d) のバッターボックスルール (これまでマイナーリーグに適用されていた) が今年からメジャーにも適用されることになり、本文の一部が次の通り改正された。</p> <p>打者が意図的にバッターボックスを離れてプレイを遅らせ、かつ前記 (□) ~ (□) の例外規定に該当しない場合、球審は、当該試合においてその打者の最初の違反に対しては警告を与え、その後違反が繰り返されたときは、リーグ会長はその打者に然るべき処罰を課すこととする。</p>
6. 03(a)(4) (6.06(d))	<p>打者がこのようなバットを使用したために起きた進塁は認められない (ただし、違反バットの使用に起因しない進塁、たとえば盗塁、ボーク、暴投、捕逸を除く) が、アウトは認められる。・・・</p> <p>と改正された。これは打順の誤りの場合と同じ解釈となる。</p>
6. 01(a)(10) (7. 09 (j))	<p>・・・アウトを宣告する。(7. 08 b 参照) 審判員は、規則 5. 09 (b) (3) (現行7. 08 (b)) により走者にアウトを宣告する。打者走者が打球を処理しようとしている野手を邪魔したとみなされなかった場合、および走者の妨害が故意ではなかったと判断された場合には、打者走者には一塁が与えられる。 と改正された。</p> <p>走者の妨害が故意ではなかったときには打者走者に一塁が与えられることが明確化された。</p>
6. 01(a)(10)[原注] (7. 09 (j))	<p>[原注] ・・・・・・・・</p> <p>捕手が打球を処理しようとしているのに、一塁手、投手いずれかの野手(投手を含む)が、一塁へ向かう打者走者を妨害したらオブストラクションが宣告されるべきで、打者走者には一塁が与えられる。</p> <p>一塁手、投手に限らずいずれかの打球を守備していない野手が、一塁へ向かう打者走者を妨害した場合と改正した。</p>
6. 01 (i) (7. 13)	<p>(i) 本塁での接触プレイ</p> <p>(1) 得点しようとしている走者は最初から捕手 (または本塁のカバーにきた他の野手) に接触しようとして、または避けられたにもかかわらず最初から接触をもくろんで走路から外れることはできない。もし得点しようとした走者が最初から捕手 (または本塁のカバーにきた他の野手) に接触しようとしたと審判員が判断すれば、審判員は、本塁をカバーにきた野手がボールを保持していたかどうかに関係なく、その走者にアウトを宣告する。その場合、ボールデッドとなつて、すべての他の走者は接触が起きたときに占有していた塁 (最後に触れていた塁) に戻らねばならない。走者が正しく本塁に滑り込んでいた場合には、本条に違反したとはみなされない。</p>

	<p>[原注]：走者が触塁の努力を怠ったり、肩を下げたり、手、肘または腕を使って押したりする行為は、本項に違反して最初から捕手と接触するために、または避けられたにもかかわらず最初から接触をもくろんで、走路を外れたとみなされる。走者が塁に滑り込んだ場合、足からのスライディングであれば、走者の尻および脚が捕手に触れる前に先に地面に落ちたとき、またヘッドスライディングであれば、捕手と接触する前に走者の身体が先に地面に落ちたときは、正しいスライディングとみなされる。捕手が走者の走路をブロックした場合は、本項に違反して走者が避けられたにもかかわらず接触をもくろんだということを考える必要はない。</p> <p>(2) 捕手がボールを持たずに得点しようとしている走者の走路をブロックすることはできない。もし捕手がボールを持たずに走者の走路をブロックしたと審判員が判断した場合、審判員はその走者にセーフを宣告する。前記に拘わらず、捕手が送球を実際に守備しようとして走者の走路をふさぐ結果になった場合（たとえば、送球の方向、軌道、跳ねに反応して、投手またはカットの入った内野手からの送球に反応動いたような場合）には、それは本項違反とはみなされない。また、走者がスライディングすることで捕手または本塁をカバーにきた他の野手との接触を避けられたならば、ボールを持たない捕手が本項に違反したとはみなされない。</p> <p>[原注] 捕手が、ボールを持たずに本塁をブロックするか（または実際に送球を守備しようとしていないとき）、および得点しようとしている走者の走塁を邪魔するか、阻害した場合を除いて、捕手は本項に違反したとはみなされない。審判員が、捕手が本塁をブロックしたかどうかに関係なく、走者はアウトを宣告されていたであろうと判断すれば、捕手が走者の走塁を邪魔または阻害したとはみなされない。また、捕手は、滑り込んでくる走者にタッグするときには不必要かつ激しい接触を避けるために最大限の努力をしなければならない。滑り込んでくる走者と日常的に不必要なかつ激しい接触（たとえばひざ、すね当て、ひじ、または前腕を使って接触をもくろむ）をする捕手はリーグ会長の処罰の対象となる。</p> <p>本項は本塁でのフォースプレイには適用されない。</p>
第5図 ストライクゾーン	イラストが変更（打者の姿勢およびヘルメット着用）、なおストライクゾーンの定義は変更なし
その他	<p>巻末に、 用語の定義 付表 図1 野球競技場区画線 (1) 図2 (2) 図3 (3) 野手のグラブ ストライクゾーン 現行規則書との条文番号対比表 総ページ数 160ページ（索引を除く）</p>